

【山崎主宰の俳句】

慟哭

山崎 聰

トマトから生まれてきょうのむすめたち
熟睡のあと夏星の一語一語
東京をはなれてからの祭笛
蛸げじ蜈蚣むかでいろあつて日が暮れる
アマリリスその一瞬の顔かたち
慟哭はかの夏の日の雲間から
ためらいてさまよいて炎日の母ら
ともだちのともだちとして夏の星
やさしさに遠くある日の白い滝
ぼんやりといて月の夜のアメフラシ